

2022年度大学院授業アンケート結果概要

はじめに

本学大学院（修士課程）における授業アンケートは2005年度から開始されました。

大学院に開講されている全ての授業を対象として、春学期科目、秋学期通年科目ともに12月上旬に行い、その結果については、各研究科委員会に報告されてきました。また、この間、個別科目の回答結果の担当教員への返却、授業アンケート結果等を踏まえた授業改善報告書の作成等、大学院として教育の改善に取り組んできました。

授業アンケート結果については、従来各研究科委員会の中で報告が行われてきましたが、2018年度のアンケートから、学部における授業アンケート結果と同様、IR実施委員会の下で授業アンケート結果の分析を行うこととともに、2019年度から質問項目を一部変更するとともにWebアンケートによる方式に改めました。

各教員が担当する授業のアンケート結果に加えて、大学院全体としての結果を確認することによって、更なる授業改善につなげていく機会にさせていただければと考えています。

実施方法：

演習指導教員を通じて院生に実施を周知。Webアンケートにより実施

実施概要：

	臨床心理学	犯罪心理学	法学	経済・経営学	メディア情報学	計
在籍者数	18名	5名	3名	7名	6名	39名
履修科目数	181科目	20科目	25科目	70科目	46科目	342科目
回答科目数	20科目	17科目	22科目	58科目	16科目	133科目
回答率	11.0%	85.0%	88.0%	82.9%	34.8%	38.9%

Q1. どの研究科・専攻に所属していますか。

Q2. 何年次生ですか。

全体の回答率は38.9%で、昨年の26.3%は上回ったものの、一昨年の54.4%、コロナ禍前の一昨年度の63.1%に比べて低く、特に臨床心理学専攻の回答率が低い結果となりました。

また、学年ごとの回収率は、1年次生45.3%（126/278）、2年次生10.9%（7/64）であり、特に2年次生について、昨年度（1年次生26.2%、2年次生26.7%）、一昨年度（1年次生49.7%、2年次生72.1%）よりも低くなっています。

Q3. 主にどのような理由でこの科目を履修しましたか。

全体では1. 必修だから を選択した層の割合が39.8%（昨年度56.8%、一昨年度64.0%）、2. 研究に必要だから を選択した層の割合が29.3%（昨年度4.5%、一昨年度13.5%）、4. 知識・技能を広げるため を選択した層の割合が19.5%（昨年度23.9%、一昨年度17.1%）、3. 将来の進路に役立つから を選

択した層の割合が 11.3%（昨年度 2.3%、一昨年度 3.6%）と 4 肢に回答が集まりました。また、近 2 年に引き続き、5. 先輩や友達にすすめられたから を選択した層の割合は 0%であり、コロナ禍の影響も考えられます。

専攻別では、従前同様、臨床心理学専攻において、1. 必修だから を選択した層の割合が高く、総合政策研究科 3 専攻の回答は分散しています。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. 必修	95.0%	64.7%	27.3%	24.1%	18.8%	39.8%
2. 研究必要	0.0%	0.0%	22.7%	41.4%	62.5%	29.3%
3. 進路に資する	5.0%	0.0%	18.2%	13.8%	12.5%	11.3%
4. 知識技能	0.0%	35.3%	31.8%	20.7%	6.3%	19.5%
5. 先輩友達薦め	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6. 時間割都合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7. 修得が容易	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8. その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

Q 4. この科目の履修は、どのようにして決めましたか。決めるのに最も役に立ったものを 1 つだけ選んでください。

全体では、3. 教員の指導 を選択した層の割合が 45.9%（昨年度 25.0%、一昨年度 29.7%）、2. シラバスを読んで を選択した層の割合が 30.8%（昨年度 42.0%、一昨年度 22.5%）、1. ガイダンスでの説明 を選択した層の割合が 20.3%（昨年度 6.8%、一昨年度 17.1%）と 3 肢に集まり、近 2 年一定の割合があった 6. その他上記以外 を選択した層の割合は 2.3%（昨年度 25.0%、一昨年度 29.7%）に留まりました。

臨床心理学専攻では、3. 教員の指導に回答が集まり、2. シラバスを読んで（昨年度 57.5%、一昨年度 14.2%）、6. その他上記以外（昨年度 27.5%、一昨年度 61.2%）の回答はありませんでした。犯罪心理学専攻では、2. シラバス を選択した層の割合が 41.2%（昨年度 50.0%、一昨年度 80.0%）と一定の回答がありますが、1. ガイダンスでの説明 を選択した層の割合が 52.9%（昨年度 0.0%、一昨年度 5.0%）に割合を高め、6. その他上記以外 を選択した層の割合は 5.9%（昨年度 45.0%、一昨年度 0%）、3. 教員の指導 を選択した層の割合は 0.0%（昨年度 5.0%、一昨年度 15.0%）と年により傾向に変化がみられます。総合政策研究科では指導教員による履修指導やガイダンスに回答が集まっていましたが、今年度は 2. シラバス を選択した層が一定数おり、傾向の変化が見られます。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. ガイダンス	0.0%	52.9%	9.1%	15.5%	43.8%	20.3%
2. シラバス	0.0%	41.2%	68.2%	32.8%	0.0%	30.8%
3. 教員の指導	100.0%	0.0%	22.7%	46.6%	56.3%	45.9%
4. 窓口で相談	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5. 先輩に相談	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.8%
6. 上記以外	0.0%	5.9%	0.0%	3.4%	0.0%	2.3%

Q 5. 授業開始時に示されたシラバスに沿った授業が行われていましたか。

肯定的な回答を選択した層の割合が 95.5% (昨年度 85.2%、一昨年度 94.6%) であり、昨年と比べ、3. どちらともいえない が 4.5% (昨年度 11.4%、一昨年度 3.6%) と割合が低くなっています。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. きちんと	70.0%	5.9%	77.3%	79.3%	100.0%	70.7%
2. ある程度	25.0%	64.7%	22.7%	20.7%	0.0%	24.8%
3. どちらとも	5.0%	29.4%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%
4. 5 沿っていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

Q 6. この科目の到達目標は明確に示されていましたか。

肯定的な回答を選択した層の割合が 98.5% (昨年度 81.8%、一昨年度 86.5%) を占め、近 2 年より割合を高めています。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. たいへん明確	55.0%	5.9%	81.8%	81.0%	100.0%	69.9%
2. かなり明確	40.0%	94.1%	13.6%	19.0%	0.0%	28.6%
3. 何ともいえない	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%	0.8%
4. あまり明確でない	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
5. 目標がわからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

Q 7. この科目の欠席回数は何回でしたか。

欠席回数 0 回を選択した層の割合が 72.2% (昨年度 92.0%、一昨年度 83.8%) と近 2 年よりやや低下し、コロナ禍前である一昨年度の 66.9% に近い割合となりました。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. 0 回	5.0%	76.5%	77.3%	87.9%	87.5%	72.2%
2. 1-3 回	85.0%	23.5%	22.7%	12.1%	12.5%	26.3%
3. 4-7 回	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%
4. 5. 8 回以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

Q 8. 授業時間以外に、この科目のために一週間に平均してどれくらい勉強しましたか？

コロナ禍前との比較もあり、過去 3 年の結果も参考に掲載しました。

授業外学習時間については、昨年度よりも選択肢 3. 5 の割合が低くなり、選択肢 1. 2 の割合が高くなったことから、昨年度よりも時間数が多くなったとはいえませんが、一昨年度は下回っています。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. 4 時間以上	0.0%	5.9%	9.1%	17.2%	62.5%	17.3%
2. 4-2 時間	15.0%	29.4%	31.8%	51.7%	37.5%	38.3%
3. 2-1 時間	10.0%	64.7%	22.7%	8.6%	0.0%	17.3%
4. 1 時間-30 分	40.0%	0.0%	9.1%	13.8%	0.0%	13.5%
5. 30 分以下	30.0%	0.0%	22.7%	6.9%	0.0%	11.3%

Q10. 担当教員は意欲的に授業をおこなっていましたか。

教員の意欲を感じたとの回答が99.2%（昨年度90.9%、一昨年度96.4%）で各専攻とも9割以上が肯定的な回答でした。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. たいへん	45.0%	23.5%	77.3%	81.0%	100.0%	69.9%
2. かなり	50.0%	76.5%	22.7%	19.0%	0.0%	29.3%
3. どちらとも	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
選択肢4-5	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%

Q11. この科目の進みぐあいは適切でしたか。

授業進度について、全体では81.2%（昨年度73.9%、一昨年度90.1%）が適切と回答しています。

「速い」と感じた回答の割合は18.0%（昨年度21.6%、一昨年度6.3%）で、近2年と同様、メディア情報学専攻、経済・経営学専攻に一定数の回答がある結果となりました。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. 非常に速かった	0.0%	0.0%	0.0%	19.0%	31.3%	12.0%
2. かなり速かった	0.0%	0.0%	9.1%	10.3%	0.0%	6.0%
3. 適切だった	100.0%	94.1%	90.9%	70.7%	68.8%	81.2%
4. どちらかといえば遅かった	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
5. 非常に遅かった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

Q12. この科目が目指している知識や能力や技術が身につけてきていると感じましたか。

身につけた知識・能力・技術については、91.0%（昨年度80.7%、一昨年度84.7%）が肯定的な回答をしています。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. 十分に	15.0%	29.4%	22.7%	55.2%	81.3%	43.6%
2. ある程度	55.0%	70.6%	68.2%	37.9%	18.8%	47.4%
3. どちらとも	25.0%	0.0%	9.1%	6.9%	0.0%	8.3%
4. あまり	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5. 全く	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%

Q13. この科目をうけてあなたの研究（テーマ）への手掛かりを得られましたか。

近2年は臨床心理学専攻において、3. どちらともいえない を選択した層の割合が50%を超えています。犯罪心理学専攻については、2019年度に当該設問を設定して以降、隔年で3. どちらともいえない を選択した層の割合が変化しています。また、法学、経済・経営学専攻では、過去3年は、1. たいへん 得られた を選択した層の割合が高かったところ、今年度は回答がやや分散しています。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. たいへん	10.0%	5.9%	22.7%	60.3%	100.0%	44.4%
2. かなり	15.0%	94.1%	31.8%	24.1%	0.0%	30.1%

3. どちらとも	65.0%	0.0%	31.8%	15.5%	0.0%	21.8%
4. あまり	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5. 全く	10.0%	0.0%	13.6%	0.0%	0.0%	3.8%

<参考 昨年度>

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. たいへん	10.0%	5.0%	—%	100.0%	60.0%	26.1%
2. かなり	10.0%	30.0%	—%	0.0%	12.0%	14.8%
3. どちらとも	50.0%	50.0%	—%	0.0%	16.0%	38.6%
4. あまり	30.0%	15.0%	—%	0.0%	0.0%	17.0%
5. 全く	0.0%	0.0%	—%	0.0%	12.0%	3.4%

Q14. この科目に対するあなたの学修及び研究に対する取組を自己評価してください。

取組自己評価については、97.0%（昨年度 81.8%、一昨年度 88.3%）が肯定的な回答をしています。臨床心理学専攻については、近2年は他の4専攻とやや傾向が異なりましたが、他4専攻に近い回答になっています。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. たいへん	15.0%	5.9%	31.8%	56.9%	93.8%	44.4%
2. かなり	70.0%	94.1%	68.2%	41.4%	6.3%	52.6%
3. どちらとも	15.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	3.0%
4. あまり	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5. 全く	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

まとめ

2022年度の大学院科目は、原則対面形式で実施していますが、コロナ禍の近2年、必要に応じてコロナ以前の一昨年度との比較を中心に分析を試みました。

2022年度のアンケート回答率は、38.9%（133/342科目）でしたが、特に臨床心理学専攻において11.0%（20/181科目）とかなり低下し、また、幾つかの設問の回答について、近年の回答とやや異なる傾向も見られます。

各設問の回答については、全体的に昨年度やや低下した肯定的な回答の割合は回復傾向にあり、Q3. 科目履修理由、Q8. 自習時間、Q13. 研究（テーマ）等では、コロナ禍の近2年の回答から傾向の変更が見られました。

これらの傾向変化が、コロナ禍の影響によるものか、回答率の低下によるものかは、他の要素等の照合を要しますが、2023年度に向けて各専攻のFD等における検討や検証等を要すると考えています。

以上